# 大崎上島における災害遺構等を活用した高潮防災への取り組み

Study of Disaster Prevention with Traces by Storm Surge in Osakikamijima Island

○木下 恵介[1]，小河 浩[1]
Keisuke KINOSHITA[1]，Hiroshi OGOU[1]

[1] 広島商船高等専門学校
National Institute of Technology, Hiroshima College

The purpose of this study is disaster prevention for storm surge in Osakikamijima Island. The authors surveyed traces by storm surge and old names of places. The authors confirmed histories of disaster by storm surge at polder-land. And the authors confirmed relationship of place name and disaster. The paper proposed that is important that we know histories of places for disaster prevention.

***Keywords*** *: Trace of Disaster, Storm Surge, Polder-land, Osakikamijima Island*

## １．はじめに

著者らの所属する広島商船高等専門学校は，瀬戸内海の離島の一つである大崎上島（おおさきかみじま）に立地している．このような海に面した地域における災害として，特に高潮や津波が想定される．大崎上島では過去に度々高潮の被害に遭っており，特に 1884 年 8 月 25 日の高潮による水害では 27 名の住民が死亡したという記録が残されている．

著者らはこれまでに大崎上島島内各所で潮位観測を行ない，観測された高潮の分析を行なってきた．一方，大崎上島では高潮による被害を過去に度々受けており，その痕跡がうかがえるような古地名や災害遺構が存在する．本論文では，過去の災害の記憶や，先人の残した教訓を調査し整理しようとする取り組みについて報告する．

## ２．大崎上島の高潮災害遺構

大崎上島では 1884 年（明治 17 年）に発生した大規模な高潮水害を記録した遺構が残されている．口伝によると，当時，高潮によって島内の干拓地の堤防が全て決壊し，急激に海水が集落へ流れ込んだという．60 戸の家屋が流失し，27 名が死亡した [1)]とされている．ここでは図 1 に示す大崎上島の垂水地区及び大串地区に残る高潮災害の遺構について紹介する．

### (1) 垂水地区の石碑

大崎上島の垂水地区では図 2 に示す石碑が建立されている．碑文中には「明治十七年秋海嘯垂水郷堤防崩潰塩･･･」とあり，1884 年に発生した高潮による水害を伝えている．さらに「大正四年秋海再嘯沿岸皆被害･･･」とも書かれており，度々高潮の被害に遭遇していることが記録として残されている．

碑文中には「海嘯」という表現が使用されている．海嘯は津波を示す言葉としても使用されるが，当時，大きな地震が発生した記録は無く，明治期最大の台風の接近と同時期であることから，ここでは台風による高潮を示していると推測できる．

### (2) 大串地区の潮位石

大崎上島の大串地区では図 3 に示す潮位石と呼ばれる石が民家の石垣に残されている．1884 年に発生した高潮による水害の際，下段の石の高さまで海水が流入したと伝えられており，上段の石よりも海抜が高い場所に家屋を建てるべきとされている．

図1　大崎上島

## ３．島内の古地名について

大崎上島では，沿岸に存在する小さな島との間に堤防を築き，その内側を干拓することによって土地を開いてきた歴史 [2)3)]がある．したがって，そういった一部の土地では海抜が低くなっており，護岸が十分でなかった時代には度々水害が発生している．また，そのような新しく拓いた土地には「新開」という名が付けられており，土地の名前から，その土地の歴史や水害のおそれ等を推察することができる．

前述した垂水地区の石碑が建立されている場所は「豊広新開」と呼ばれる土地であり，また大串地区の潮位石がある民家は「入相新開」と呼ばれる土地の側にあることから，これらの土地は干拓地であり，もともと海抜が

低く高潮の被害を受けやすい場所であったことが分かる．

このような土地の名前は大字や小字の中に見られるほか，地域住民によって名付けられ彼らだけに使用されるものもある．しかし最近の住所表記においては，大字や小字の表記が廃止されている場合が多く，その土地の持つ個性を住所表記から推測することが困難になってきている．

そこで，著者の所属する広島商船高等専門学校では，古い地名に関する地域住民への聞き取り調査を行なうなどして，古い地名を知ることで防災へ繋げる取り組みを行なっている．図 4 は島内で開催されたイベントにおいてブースを構え，学生による古い地名の聞き取り調査を実施した際の写真である．調査では，地域住民の方々が経験した，あるいは伝え聞いた自然災害についてのエピソードを話して頂き，その土地の名称や由来についての聞き取りを行なった．

聞き取り調査では，合計で約 50 件の聞き取り結果が得られた．話して頂いた自然災害のエピソードの多くは砂防が十分でなかった時代の土砂崩れの経験であり，それに関係するものが 25 件，高潮による水害の経験は 14 件，河川の氾濫などの経験は 10 件であった．河川の氾濫については，大雨での増水によるものと，高潮での海水流入によるものとが混在しているように思われた．それらの土地の古い名称についても聞き取ることができ，特に高潮水害については干拓地を示す「新開」と名の付く土地での被害を確認することができた．

## ４．津波ハザードマップとの比較

大崎上島では，津波ハザードマップ [4]が作成され，地域住民に配布されている．この津波ハザードマップは，国土交通省による「津波浸水想定の設定の手引き」[5]の手法に基いて作成されており，津波による浸水想定区域及び浸水深が地図に表示されている．ハザードマップに表示された浸水想定区域は科学的な指標に基いて作成されたものであるが，古地名において「新開」の名前が付く干拓地の場所と，ハザードマップの浸水想定区域は概ね一致している．図 5 に津波ハザードマップでの大串地区における浸水想定区域を示す．

## ５．おわりに

大崎上島は，高潮による被害を過去に度々受けてきた．特に 1884 年の台風による高潮水害では甚大な被害を受けており，その記録を現代に伝える災害遺構も存在している．大崎上島には，干拓によって開発された土地が多く存在し，高潮による被害を受け易い場所がある．そういった場所には，干拓された土地であることを示す名前が付いており，大字名として残っている．津波ハザードマップと比較することによって，干拓地を示す名前の付く土地は，浸水想定区域に指定されていることが確認できた．災害遺構や古い地名から，その土地の歴史を紐解くことで，防災に役立てることができると言える．

## 参考文献


1) 金原兼雄：大崎上島郷土の歴史勉強会配布資料
2) 福本清ほか：大崎上島 東野村史 上巻，1962
3) 笹岡栄ほか：大崎町史，1981
4) 大崎上島町：津波ハザードマップ，2017
http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/bunya/bosai/
5) 国土交通省：津波浸水想定の設定の手引き Ver.2.00，2012
http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/

図2　垂水地区の石碑

図3　大串地区の潮位石

図4　聞き取り調査の様子

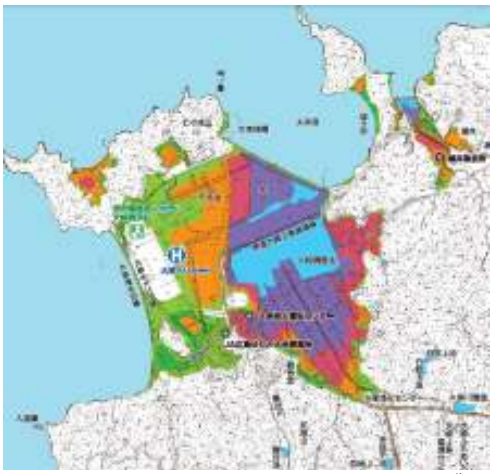

図5　津波ハザードマップ（大串地区）[4]